

4 令和4年度 前期教職員自己評価集計結果

I 学校経営・組織・安全管理

NO	評価項目	回答数	R4 前期	判定	R3 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
1	学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づいた学校運営がなされている	28	3.8	A	3.7	3.7	21	7	0	0	100%	0%
2	教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係のもと協働的に教育活動が行われている	27	3.4	A	3.4	3.4	12	15	0	0	100%	0%
3	施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理（整備・保全）している	28	3.9	A	3.9	3.9	26	2	0	0	100%	0%
4	事故や災害等に対し、適切な対応マニュアルが整備され、危機管理に努めている	28	3.8	A	3.7	3.8	22	6	0	0	100%	0%
5	生徒の個人情報について、適切に管理・保護されている	28	3.5	A	3.7	3.6	16	11	1	0	96%	4%
6	新型コロナウイルス等について、正しい知識で感染防止対策に取り組むよう努めている	28	3.8	A	3.8	3.8	23	5	0	0	100%	0%
7	ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善に取り組んでいる	26	3.1	A	3.3	3.5	8	13	5	0	81%	19%

【記述による回答】

- ③安全点検ですが、特別館トイレは点検されていますか？ 結果一覧表に記載がなかったので。過日、管理棟トイレが工事のため使えないときに、特別館2階トイレを使用したときに3つの個室の内、2つが使用禁止になっていたので点検がされていないのではと思いました。また、清掃担当が安全点検者に当たったほうが異常に気が付きやすく、管理も日常的できると思います。再考をお願いします。
- ⑤生徒理解票の保管場所を考えるべきだと思います。生徒の出入りがあるので、生徒の目のつきやすい所に置いておくのは危険です。
- ⑤生徒の個人情報（成績等）の管理については、時折机の上やロッカー上に置き去りにしている場合が見受けられました。収納場所の確保も併せて改善が必要かと思えます。
- ⑦学校全体で見れば、早く退勤している先生方も多い。これは、業務改善が進んでいる成果だと思う。しかし、個人的には、校外に抱えている業務により大きな負担がかかっている。睡眠時間や私生活の時間を削り業務を行っているのが現状である。難しいことはわかっているが、少しずつ改善していきたい。
- ⑦ライフワークバランスはなかなか難しい。仕事が減らないので…
- ⑦パソコン等が切り替えのときでもあり仕方ないが、自分自身毎日の連絡事項さえしっかり追えていない。そのために計画的な仕事ができず昨年より残業時間が増えてしまっている。今年は空き時間も減ったため教員間の連携等も自分がうまく行えていないように強く感じている。
- ⑦自分は会計年度任用職員であるため、自分が望む働き方ができているので、W&Lバランスは極めて良好だが他者については把握していない。ただし、教職全体に付いてはまだまだ業務スリム化、もしくは個人ライフの自由度を上げることはできるのではないかと、客観的には感じています。
- ⑦新校務支援やグループウェアへの移行に伴い、不慣れであるという理由も確かにあるが、閲覧・確認箇所等も増え業務内容は明らかに増えているように感じている。
- ⑦多忙化改善のために管理職の先生方はよく働きかけてくれているのですが、仕事量の偏りがあると思います。毎週土日を返上して学年の仕事をしてくれている先生がいます。仕方のない部分もあるかもしれませんが、みんなで仕事を分担出来たらいいと思います。

II 教育課程・学習指導

NO	評価項目	回答数	R4 前期	判定	R3 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
8	新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している	27	3.6	A	3.6	3.6	15	12	0	0	100%	0%
9	校内研究の主題である、学び合いを通じた確かな学力の向上に向け、授業改善に取り組んでいる	25	3.6	A	3.6	3.7	16	9	0	0	100%	0%
10	道徳の授業の充実にも努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を日常的に実施している	27	3.5	A	3.5	3.6	14	13	0	0	100%	0%
11	GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の積極的な利用に努めている	25	3.4	A	3.4	3.7	10	14	1	0	96%	4%

【記述による回答】

- ⑪私が、生徒がタブレットを使用した授業実践ができているので。
- ⑪メールパトロールの結果をうけて、適切な利用を促す指導を全職員で行っている。

Ⅲ 生徒指導・教育相談・特別支援教育

NO	評価項目	回答数	R3 前期	判定	R2 前期	R2 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
12	生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している	27	3.5	A	3.7	3.7	13	14	0	0	100%	0%
13	いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる	27	3.7	A	3.7	3.7	18	9	0	0	100%	0%
14	保護者との対応や関係諸機関（SC・SSW・SS等）との連携が、スムーズに行われている	27	3.6	A	3.7	3.7	16	11	0	0	100%	0%
15	養護教諭やスクールカウンセラーなどとの連携が、教育相談に生かされている	27	3.8	A	3.8	3.7	22	5	0	0	100%	0%
16	「師弟同行」を実践するとともに、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている	27	3.4	A	3.4	3.5	11	15	1	0	96%	4%
17	不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している	27	3.4	A	3.6	3.6	10	17	0	0	100%	0%
18	特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて手立てが進められている	27	3.4	A	3.5	3.5	12	14	1	0	96%	4%

【記述による回答】

⑬何気なく行っている言葉が相手にとっては不快に捉えられたり、次は自分が言われるのではないかと思ひ不安になったり、保健室ではそのような子どもの声を、傾聴から課題解決に向けて、「いじめ防止と不登校を未然に防ぐため」に子ども共に考えています。目に見えない生徒の気持ち（潜在化）をこれからも先生方に伝えながら、学校生活が送れるように支援指導したいと思ひます。

⑯生徒から「〇〇先生が集会の最中にスマホ見てた」と言われた。スマホを使う場面もあると思うがインターネット検索が必要ならタブレット端末などを使って、極力生徒の前ではスマホを使わない方がいいのではないかなと思う。

⑱交流学級にも支援が必要な生徒が多く、日によって様々な事象が起きており、対応できていないように感じます。

Ⅳ 特別活動

NO	評価項目	回答数	R4 前期	判定	R3 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
19	学校行事や生徒会活動等の取り組みが、生徒の自主性や協調性を養い学校生活の充実につながっている	27	3.6	A	3.5	3.6	15	12	0	0	100%	0%
20	部活動は、主体的・意欲的な取り組みを通じて達成感を得られるよう、運営の工夫がなされている	27	3.5	A	3.7	3.8	15	11	1	0	96%	4%
21	合唱を推進する活動が、計画的・効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている	25	3.2	A	3.4	3.5	6	17	2	0	92%	8%
22	朝・帰りのあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている	28	3.3	A	3.5	3.5	10	17	1	0	96%	4%

【記述による回答】

19委員会活動を含めた生徒会活動が、教師主導で突発的に進められることが多いように思う。計画的に進め、生徒が見通しをもった活動を進められるようにしたい。

21学級合唱だけでなく学年合唱をできる機会がほしいです。

21合唱については活動を始めたばかりのために不明としました。

21合唱活動がこのままうまく機能しないことに危機感を持っているが、早く学年合唱が普通にできるようになればいいと祈るばかりである。

221年生にあいさつの習慣を定着させることが未だ道半ばだから。

22あいさつについては、昨年度よりやや低下傾向が感じられる。

Ⅴ 保護者・地域連携

NO	評価項目	回答数	R4 前期	判定	R3 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
23	生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している	26	3.6	A	3.5	3.6	15	11	0	0	100%	0%
24	各種たよりやホームページ・学校連絡メールを活用し、保護者や地域への情報提供に努めている	27	3.7	A	3.7	3.7	20	7	0	0	100%	0%

【記述による回答】

とくになし

VI その他

昨年度なかった
項目

NO	評価項目	回答数	R4 前期	判定	R3 前期	R3 後期	4の 回答数	3の 回答数	2の 回答数	1の 回答数	肯定的 回答%	否定的 回答%
25	小中一貫教育のねらいを理解し、小中連携を意識した教育活動の推進に努めている	25	3.3	A	-	-	8	17	0	0	100%	0%
<p>【記述による回答】 25 緒についたところであるとお知らせ頂いています。 25 小中一貫教育の会議に出ていないのでよくわかりません。先進地区（楡形地区）の様子が分かるといいですね。</p>												

5 前期教職員自己評価の考察

(1) 教職員自己評価集計結果の概略

教職員自己評価については、28名（非常勤・市職員含む/職務内容により回答不能な項目は未回答）より回答を得た。評価対象である全25項目が、回答平均3.1以上のA判定であり、全ての項目について肯定的な回答が80%を上回る結果となった。今年度新規の1項目を除いた内訳についてみると、昨年同期（以下「同期」）比で0.1上回った項目が4、0.1下回った項目が2、0.2下回った項目が7、残りの11項目は同等の数値であった。また、肯定的回答率に着目すると、100%の項目が16（同期比-1）、96%以上の項目が6（同期比+1）であり、96%未満の項目は2（同期比±0）となっている。この結果から、本校の教職員が、学校教育目標並びに学校経営方針を概ね意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが見てとれる。なかでも、**1**「学校教育目標・学校経営方針に基づいた学校運営」に関わる項目については、昨年前期・後期比でともに上回る数値が認められた。

しかしながら、評価平均3.5未満（※A判定であるものの、やや低めであると判断）の項目や、同期比ならびに昨年後期比で低下のみられる項目も多く見受けられた。回答方式を紙面からWebアプリ Google Forms による回答に切り替えたこともあり、単純には比較はし難い面もあるが、後期に向け、より充実した教育活動推進のため真摯な検討を要する。

今年度こそはと期待し、一時は終息に至るかに思われたコロナ禍も、第7波に至ってはこれまで以上に感染が拡大しつつある。「ウィズコロナ」が広く認識され、新しい生活様式による学校生活への抵抗感も薄れつつあるが、感染拡大防止に向けた対応の煩雑さに加え、制限された教育活動が今年度も基準として定着しつつある学校現場においては、戸惑いの色を隠せない現状である。

(2) 各分野ごとの考察

I 学校経営・組織・安全管理

2「教職員間の相互理解と協働的な教育活動」の項目は、昨年前期・後期同様3.4とやや低い評価が示されている。検温対応による朝の打合せ削減は今年度も継続となり、加えて校務支援システムが変更されたことにより職員間の伝達手段もやや複雑化され、相互理解の不十分な要因となっていることが推測される。記述回答に安全点検に関わる内容が挙げられているが、事前に伝達した内容が浸透していない例の一つとしても反省される事項である。改善に向けて1学期後半より、週1回の割合で定例の終礼を実施し始めているが、加えて日常の校務における報告・連絡・相談体制の重要性も再度確認しておく必要がある。新たな校務支援システムへの早期の適応を前提に、コロナ禍における対応が今後も継続することを想定するなかで、一層の工夫と共通理解に基づいた職務の遂行を全職員で確認したい。

5「個人情報の適切な管理・保護」の項目は、3.5と著しく低い数値ではないものの、記述回答に改善を指摘する意見がみられた。幸いこれまでに個人情報に関わるトラブルは発生していないが、油断していると思われる状況は指摘のとおりでもある。責任をもった管理と保護について全職員で確認し合う必要がある。なお、本校職員室は空間としては開放的で恵まれているが、比して収納場所が限定的で少ない為、計画的に改善を図りたい。

7「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」の項目は、3.1と同期比で0.2ポイント低下、昨年後期比では0.4ポイント低い値が示された。働き方改革に向け、アクションシートをもとにした取り組みも意識され、昨年度は前期から後期にかけての向上がみられたものの、新年度スタッフ配置も換わるなかで導入された、新校務支援システムやグループウェアの運用に適応できず、また複雑な操作の必要性から多忙感を抱える教職員も多い。さらに、勤務時間（とくに退勤時刻）や年次休暇等の取得については、かなり意識の高まりが認められるものの、業務内容自体は必ずしも減少していない（コロナ禍への対応も含め新たな課題や業務も生じてきている）ことから、職場内だけでの改善には限界があるといえる。今後部活動の地域移行についても検討が進められ、状況は大きく変化していくものと予想されるが、県教委・市教委ならびに地域との連携を図るなかで、少しでも多忙化の解消につなげていきたい。

II 教育課程・学習指導

本分野は、4項目中3項目が肯定的回答率100%、1項目が96%であった。新型コロナ感染拡大防止に向けた対応に苦慮しながらも、学びを止めない為の取り組みや工夫を継続して実践できている成果とみてとれる。

11「GIGA スクール構想実現に向けた端末の積極的利用」の項目については、3.4ポイントとやや低めの数値が示された。昨年度スタートしたGIGA スクール構想の実現に向けた取り組みは次第に気運も高まり、多くの教職員が日常の授業の中で端末を活用しているが、機器の取扱いを苦手としたり、活用の為の準備に時間を割けない教職員も一定数おり、改善の必要性が求められる。今後も予断を許さないコロナ禍において、オンラインによる授業等、一層の柔軟性をもって対応できるように準備をしておきたい。

なお、今年度は「中巨摩学校食育推進研究公開指定」「山梨県小中学校体育連盟・保健体育研究指定」を受けている為、小中一貫教育の推進と併せて研究を進めているところである。

III 生徒指導・教育相談・特別支援教育

本分野は、7項目中5項目が肯定的回答率100%、2項目が96%であった。

12「報告・連絡・相談体制の確立と組織的な対応」の項目は、3.5ポイントと顕著に低い値ではないが、昨年比で0.2ポイントの低下がみられた。家庭事情を伴った問題行動についての全体周知は困難な部分もあるが、関係する教職員を起点にスムーズな情報共有を心がけたい。

16「師弟同行の実践と生徒の模範・理解者・支援者」・17「不登校傾向の生徒支援」・18「特別支援教育についての共通理解」の項目は、3.4ポイントとやや低めの評価が示された。

生徒指導上の問題について、SNSの利用等に関わる事項は、非常に相関性の高い傾向が認められている。記述回答の指摘にもあるように、信用失墜につながるものないよう教職員自らもスマホ等の利用機会・エリアを見直しておく必要がある。

不登校傾向にある生徒は、昨年度に比べ数的にはやや減少したものの、1学期後半にかけての増加傾向も認められる。各学級担任を中心に丁寧に対応しているが、保健室における支援やSCによる助言、また外部機関への支援要請や必要に応じてはフリースクール等への通所も選択肢に含め、個に応じた柔軟性のある対応を職員全体で共通理解しておきたい。

特別支援教育に関わっては、特別支援学級のみならず、通常学級内にも様々な特性を抱えた生徒が複数みられる。学年職員や支援担当職員を中心に対応しているが、学年内だけでは困難な場面もみられる為、今後の状況に応じては全校体制で関わられるように調整を図る。また、計画的に実施される校内支援委員会を通じて得られた方策や共通理解をもとに、全職員一丸となりチームとしての取り組みを充実させていきたい。

IV 特別活動

19「学校行事や生徒会活動等の取り組み」の項目については、同期比で0.1上回る3.6ポイントとなった。コロナ禍による制限がある中、工夫してリモートによる生徒総会を実施することができた。また、特別活動としての学校行事ではないものの、昨年度計画通り実施できなかった1・2年生の校外学習が宿泊を伴って実施できた点は、評価につながったものと思われる。委員会活動については、定例化するなどして計画的に取り組むことにより、生徒の自主性や思考力の向上につながれるとよい。

20「部活動への取り組み」の項目については、3.5ポイントと顕著に低い値ではないが、同期比で0.2ポイントの低下がみられた。記述による意見はみられなかったが、コロナ禍により今年度も活動制限の期間が設けられた点や部員数不足により充実した活動が実現できなかったことが要因として推測される。今後、部活動は地域移行が急速に進められていくことになる。活動主体の生徒にとって、一層有意義なものとなるよう注視しながら取り組んでいきたい。

21「合唱活動の推進」の項目については、同期比で0.2ポイント低下の3.2と低い数値が示された。コロナ禍3年目となり「ウィズコロナ」の方針に従い、社会生活の中では行動制限なしの活動が進められてはいるものの、合唱自体が感染リスクの高い活動でもあるだけに、依然

として数々の制限を伴い限定された範囲に絞られている。「今年こそは」との期待を挫かれた状況が、評価に表れてきているものと推測される。やむを得ないところではあるが、今後も現況を把握するなかで、「何が可能なのか」・「どうしたら可能となるのか」を熟慮し、工夫して取り組んでいかざるを得ない。

22 「あいさつができる生徒の育成」の項目については、同期比で0.2ポイント低下の3.3と低めの数値となった。記述回答による指摘にもあるが、日常の学校生活において、感覚的にもあいさつの状況に低下が感じられる。全てがコロナを理由にはできないものの、この3年間「大きな声で、元気よく…」を慎む風潮も習慣化されつつあるなかで、あいさつのやりとり自体も減少傾向にあるのではないかと危惧される。また、前期生徒アンケートの補足質問「改善・伸ばしていった方がよい点」の回答結果に着目すると、いずれの学年においても「あいさつ」に関する内容の回答が多くみられた。生徒自らも意識している点であることがわかる。コロナ禍の継続している現状ではあるものの、生徒会や各学年の取り組みを通じて望ましいあいさつ習慣づくりを進めていきたい。

V 保護者・地域連携

2項目とも肯定的回答率100%であった。

23 「保護者との相互理解と連携」は、同期比で0.1ポイント上昇の3.6であった。コロナの影響により、今年度も授業参観は学校開放日として分散したかたちでの実施となったが、全家庭の1/3程度の保護者に参観いただくことができた。また、家庭訪問や三者懇談については、感染防止対策を講じながらも当初の計画どおり実施することができている。

24 「情報提供」の項目については、3.7と昨年同様に比較的良好な評価が示された。学年のたよりや週予定、学級通信の充実、また文書による通知と平行して運用した学校メール配信により、逐次情報の共有に努めてきた。メール配信システムについては、今年度より切り替えての運用となったが、スムーズに移行することができた。学校ホームページにも、月当たり1,000～2,000ほどの訪問者の閲覧が認められている。今後も、保護者や地域の方々に学校生活の様子や行事の実施状況を伝える手段として、掲載内容等を工夫するなかで情報提供に努めていきたい。

VI その他

25 「小中一貫教育の推進」の項目は、今年度新たに追加した内容であるが、肯定的回答率は100%であるものの、3.3とやや低めの評価であった。来年度の小中一貫校設立に向け、昨年度後半より少しずつ計画が進んできてはいるものの、新型コロナウイルス感染防止対策の為、甲西地区の全小中学校教職員が参集する機会も設定できず、予期せぬ防犯上の都合により専門部会が開催できなかったこともあり、遅延感は否めない。今後の挽回を図りたい。

メモ